

# 公共工事に「環境家計簿」

## 開発局 CO<sub>2</sub>削減へ導入

開発局は新年度、公共工事での二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出削減を進めるため、受注業者に対し、工法の見直しなどにより節約できる燃料費とCO<sub>2</sub>削減量を明記した「環境家計簿」を作成してもらう取り組みを試験的に実施する。効果を「家計簿」という目に見える形で示し、受注業者のコスト削減を後押ししながら、CO<sub>2</sub>排出抑制を目指す。

公共工事の受注業者が、当初の施工計画と見直し後の施工計画を比べて、燃料とCO<sub>2</sub>の削減効果が一目で分かるように環境家計簿を作成し、掘削した土砂を仮置きせず、直接トラックに積み込んで運ぶと重機の燃料費が一割減の二十六万円にとどまり、CO<sub>2</sub>も一ト減らせる。

開発局の試算では、一千立方メートルの土砂を十キ先まで運搬する場合一、掘削した土砂を仮置きせず、直接トラックに積み込んで運ぶと重機の燃料費が一割減の二十六万円にとどまり、CO<sub>2</sub>も一ト減らせる。

大型機械を使った作業

# 技術研究発表会が開会

## 環境など214の成果披露へ

開発局、寒土研

北海道開発事業とも密接な関係を持つている。本省の研究会でも、ここから調講演した。清治氏は、



出た論文が最優秀賞を受賞している。この研究会のレベルの高さを示すものだと研究発表に向かう技術者にエールを送った。

世界的な不況下で各産業が大きな打撃を受けている中、「北海道の持つ特性、ポテンシャルを生かすことが問われている」と述べ、北海道の位置付けを冷静に判断し、的確に主張していくことの重要性を訴えた。また、地方分権改革論議の中で、北海道に厳しい意見が出ていることについて「攻められている時はむしろチャンス。経国済民のためにシビルエンジニアとして何をなすべきかを考えるべきだ」と訴えた。

研究発表のうち、北海道エコノストテクノロジイニシアティブでは、開発局事業振興部の担当者による同施策導入の背景や今後の展開、北海道建設業協会と建設コンサルタント協会から、工事と設計段階での取り組み事例などが報告された。

事業振興部からは、2009年度の取り組みとして、環境家計簿を作成し、CO<sub>2</sub>削減量の具体的な明示などを行っていくことなどが紹介された。

北海道開発局と寒土土木研究所共催の「北海道開発技術研究発表会」が25日、札幌コンベンションセンターで開会した。きょう26日までの2日間、環境やコスト、地域連携など北海道開発を支えるさまざまな技術の成果が各会場で発表される。今回は、新たな北海道総合開発計画で先導的な施策に位置付けられて

いる「北海道エコノストテクノロジイニシアティブ」が特別セッションとして展開された。この発表会は、北海道開発事業にかかわる諸問題に関する調査、研究等の成果を発表することにより、技術等の向上・普及を図ることを目的として毎年開かれている。発表者は開発局職員を中心に道など他の機関

や団体など多岐にわたる。52回目を迎える今回は、指定課題が4件、職員や他の機関からの応募による自由課題210件の計214件が発表される。初日の開会式には約400人が参加。主催者を代表して鈴木英一開発局長は「この研究会は1956年に始まって、半世紀以上の歴史を持ち、北